

日本人の国民性調査関連文献と資料

以下に掲げるのは、国民性調査を開始した 1953(昭和 28) 年以降今日までに、統計数理研究所国民性調査委員会の委員によって国民性調査研究に関して執筆された文献と資料を、可能な限り網羅したものである。

1953 年

1. 林知己夫 他：「わが国国民性の統計数理的研究」日本統計学会会報, 1953 年度, 52-66, 1953 年.

1954 年

2. 林知己夫：「統計的立場から見た国民性の研究」教育統計 (文部省調査局), 第 30 号, 16-53, 1954 年.

1959 年

3. 「国民性の研究 第 II 次調査 (その 1)」数研研究リポート, No. 5, 1959 年.
4. 「国民性の研究 第 II 次調査 (改訂増補版)」数研研究リポート, No. 6, 1959 年.
5. 西平重喜：「日本人のものの考え方」経済評論, 8 月臨時増刊号, 135-157, 1959 年.

1960 年

6. 「国民性の研究 岐阜吟味調査」数研研究リポート, No. 7, 1960 年.
7. 林知己夫：「日本人の国民性」自由, 1 月号, 58-72, 1960 年.
8. Hayashi, C. *et al.* : A Study of Japanese National Character, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. I, 1-30, 1960.
9. Hayashi, C. *et al.* : A Study of Japanese National Character—Part II—, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. II, 1-30, 1960.

1961 年

10. 統計数理研究所国民性調査委員会：日本人の国民性, 至誠堂, 1961 年.
11. 西平重喜：「国民性第 II 次調査—その 1—」日本統計学会会報, 1959 年度, 52-53, 1961 年.
12. 鈴木達三：「国民性第 II 次調査—その 2—」日本統計学会会報, 1959 年度, 53-55, 1961 年.

1963 年

13. 「国民性の研究 岐阜調査 (1963)」数研研究リポート, No. 8, 1963 年.
14. 西平重喜：日本人の意見, 誠信書房, 1963 年.

1964 年

15. 「国民性の研究 第 III 次調査 1963 年調査」数研研究リポート, No. 11, 1964 年.
16. 「成年の常識—壮丁検査との比較— および職業の社会的評価—職業ランキン—」数研研究リポート, No. 12, 1964 年.
17. 鈴木達三：「国民性の研究—第 III 次全国調査について」統計数理研究所彙報, 11 巻 2 号, 105-176, 1964 年.
18. 鈴木達三：「戦後日本人は変わったか」自由, 10 月号, 140-147, 1964 年.

1965 年

19. 林知己夫・西平重喜・鈴木達三：図説・日本人の国民性 (至誠堂新書 5), 至誠堂, 1965 年.

1966年

20. 「国民性の研究 1965年調査」 数研研究レポート, No. 14, 1966年.
21. Suzuki, T.: A Study of the Japanese National Character—Part III, The Third Survey, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. IV, 15-64, 1966.

1967年

22. 林知己夫・鈴木達三: 「日本人の自画像—日本人は日本人をどう考えているか—」 *自由*, 1月号, 170-178, 1967年.

1968年

23. 鈴木達三: 「日本人の国民性・ものの考え方」 *統計* (日本統計協会), 19巻2号 (2月号), 22-27, 1968年.

1969年

24. 「宗教調査—1968年, 国際比較—」 数研研究レポート, No. 21, 1969年.
25. 「国民性の研究 第4回全国調査—1968年全国調査—」 数研研究レポート, No. 23, 1969年.
26. 「国民性の研究—I. 1969年岐阜パネル調査—II. 面接調査と自記式調査の比較 (1969年岐阜自記式調査)」 数研研究レポート, No. 24, 1969年.
27. 林知己夫: 「日本人の国民像—15年の変化」 *自由*, 7月号, 49-57, 1969年.
28. 西平重喜: 「日本人の宗教的態度と国際比較」 *布教*, 6月号, 344-356, 7月号, 403-417, 1969年.
29. 西平重喜: 「15年間の意見の変化—国民性第IV次調査より」 *国民生活研究*, Vol. 8, No. 7 (7月号), 44-50, 1969年.
30. 西平重喜: 「国民性の変化」 *新聞広告ゼミナール講演集第20回* 全日本新聞広告会, 全日本新聞広告会, 75-111, 1969年.

1970年

31. 統計数理研究所国民性調査委員会: 第2日本人の国民性, 至誠堂, 1970年.
32. 林知己夫: 「断絶する政党と国民の政治意識」 *自由*, 2月号, 90-95, 1970年.
33. 西平重喜: 「国民性調査からみた現代日本人の考え方感じ方」 *TVVレポート*, No. 67, 81-85, 1970年.
34. Nisihira, S.: Les Attitudes des Japonais envers la Religion, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 6, 81-94, 1970.
35. Suzuki, T.: A Study of the Japanese National Character—Part IV—, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 6, 1-80, 1970. (245. に収録)

1971年

36. 青山博次郎: 「日本人—統計から見た特性」 *毎日夫人*, No. 136 (5月号), 4-18, 1971年.
37. 鈴木達三: 「海外における日系人のパースナリティ調査企画」 *AD.R (KYOWA AD-REVIEW)*, No. 54, 9-13, 1971年.

1972年

38. 林知己夫: 「比較研究のむずかしさ」 *共同通信* 1972年7月5日.
39. 林知己夫: 「日本人の国民性について—第20回国際心理学会に出席して」 *産経新聞* 1972年8月25日.
40. Hayashi, C.: The Japanese National Character, *Abstract Guide of XXth International Congress of Psychology, 1982 Tokyo*, 46-47, 1972.
41. 西平重喜: 「西洋人は宗教についてどう考えているか」 *宗務時報*, No. 29, 2-21, 1972年.
42. 鈴木達三: 「ハワイ (ホノルル) における日系人—日本人の国民性調査との関連—」 *学術月報*, Vol. 24, No. 11 (308号, 2月), 37-44, 1972年.

43. 鈴木達三：「変わりゆく日本人の国民性」PR ニュース (電通 PR センター), 77 号 (9 月 1 日号), 3, 1972 年.
44. Suzuki, T., Hayashi, C., Nisihira, S., Aoyama, H., Nomoto, K., Kuroda, Y. and Kuroda, A. K. : A Study of Japanese-Americans in Honolulu, Hawaii, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 7, 1-60, 1972. (245. に収録)

1973 年

45. 「ハワイにおける日系人—日本人の国民性調査との関連, —ハワイ日系人の言語調査」数研研究リポート, No. 33, 1973 年.
46. 林知己夫：「比較文化研究に対する一つの統計的分析の試み II—態度数量化の方法 IV—」統計数理研究所彙報, 21 巻 2 号, 173-181, 1973 年.
47. 林知己夫 (編著)・西平重喜・野元菊雄・鈴木達三：比較日本人論 (中公新書 333), 中央公論社, 1973 年.
48. 西平重喜：「日本人の国民性について」心と社会, Vol. 4, No. 1, 47-53, 1973 年.
49. 坂元慶行：「公共意識と個人の権利意識」AD.R (KYOWA AD-REVIEW), No. 63, 19-23, 1973 年.
50. 鈴木達三：「比較文化研究に対する一つの統計的分析の試み I—日本人の国民性とハワイ日系人—」統計数理研究所彙報, 21 巻 2 号, 125-171, 1973 年.

1974 年

51. 「国民性の研究 第 5 回全国調査—1973 年全国調査—」数研研究リポート, No. 38, 1974 年.
52. 林知己夫：社会と統計 (放送大学実験放送テキスト), 旺文社, 1974 年.
53. 林知己夫：「日本人の心は変わったか—調査からみた日本人の国民性」日本人研究 1/日本人の心は変わったか (日本人研究会編), 至誠堂, 1-80, 1974 年.
54. 林知己夫：「日本人の科学文明観」内外教育 (時事通信社) 1974 年 5 月 24 日.
55. 林知己夫：「日本人はどのように変わったか—国民性の調査から—」町内週報, 1165 号 (6 月), 3-7, 1974 年.
56. 林知己夫：「日本人の心のヒダ—根深い義理人情構造—」朝日新聞 1974 年 6 月 17 日夕刊.
57. 林知己夫：「現代の若者も人情課長を好む—現代若者の職場意識—」あすへの力 (神奈川県青少年育成課), No. 62 (7 月), 1-4, 1974 年.
58. 林知己夫：「日本人の国民性をめぐって」教育と医学, 10 月号, 11-19, 1974 年.
59. 林知己夫：「相互理解の構造—年齢の断絶はくるか—」青淵, 10 月号, 23-25, 1974 年.
60. 林知己夫：「義理と人情」にんげん百科, 5 巻 7 号 (通巻 59 号), 1414-1415, 1974 年.
61. 林知己夫：「日本人は健全である—国民性調査 20 年で明らかにされた真実」正論, 12 月号, 52-60, 1974 年.
62. 林知己夫：「日本人の偉人観」歴史と旅, 1 巻 12 号 (12 月号), 141-142, 1974 年.
63. 林知己夫：「日本人の価値観」自治研修, 12 月号, 11-20, 1974 年.
64. Hayashi, C. : Time, Age and Ways of Thinking—From the Kokuminsei Surveys, *Journal of Asian and African Studies*, Vol. X, No. 1 & 2, 75-85, 1974. (76. に収録)
65. Hayashi, C. and Suzuki, T. : Quantitative Approach to a Cross-Societal Research; A Comparative Study of Japanese Character, Part I, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 26, No. 3, 455-516, 1974. (245. に収録)
66. 西平重喜：「政治についての世論の変化—20 年史」日本人研究 1/日本人の心は変わったか (日本人研究会編), 至誠堂, 81-113, 1974 年.
67. 西平重喜：「変った国民性 変らない国民性」自由, 8 月号, 174-182, 1974 年.
68. Nisihira, S. : Changed and Unchanged Characteristics of the Japanese, *Japan Echo*, Vol. I, No. 2, 22-32, 1974. (67. の英訳)

69. Sakamoto, Y. : A Study of the Japanese National Character—Part V, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 8, 1-57, 1974.
70. 鈴木達三：「国民性国際比較の方法—日本人とハワイ日系人の比較から」*日本人研究 1/日本人の心は変わったか* (日本人研究会編), 至誠堂, 258-318, 1974 年.
71. 鈴木達三：日本人の国民性 20 年の変遷 (電通モチベーションリサーチ研究委員会定例研究会リポート No. 12), 1974 年 6 月.

1975 年

72. 統計数理研究所国民性調査委員会：第 3 日本人の国民性, 至誠堂, 1975 年.
73. 林知己夫：「日本人の意識は支持政党によりどうちがうか」*日本人研究 2/支持政党別日本人集団* (日本人研究会編), 至誠堂, 1-54, 1975 年.
74. 林知己夫：「統計で日本人の心を描く」*日立*, 37 巻 2 号 (2 月号), 8-9, 1975 年.
75. 林知己夫：「日本人の生きがいについて」*貯蓄時報* (日銀), No. 106 (12 月号), 12-22, 1975 年.
76. Hayashi, C. : Time, Age and Ways of Thinking—From the Kokuminsei Surveys, in *Adult Episode in Japan* (ed. Plath, D. W.), E. J. Brill, Leiden, 75-85, 1975. (64. を収録)
77. Hayashi, C. and Suzuki, T. : Quantitative Approach to a Cross-Societal Research; A Comparative Study of Japanese Character, Part II, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 27, No. 1, 1-32, 1975. (245. に収録)
78. 西平重喜：「日本人の宗教的態度の変化」*布教*, 29 巻 3 号, 174-180, 1975 年.
79. 坂元慶行：「戦後日本の経済と人間の意識構造」*週刊東洋経済*, No. 3868 (4 月 24 日臨時増刊号), 117-125, 1975 年.
80. 鈴木達三：「比較文化研究の問題」*数理科学*, 13 巻 3 号 (No. 141), 39-44, 1975 年.

1976 年

81. 林知己夫：「変わる思想・変わらぬ思想」*信濃毎日* 1976 年 1 月 1 日.
82. 林知己夫：「調査は何を物語るか」*スチールデザイン* (新日本製鉄(株)), 154 号, 3-5, 1976 年.
83. 林知己夫：「日本人の考え方はどう変ったか」*日本文化会議月例懇談会収録集*, No. 85, 1976 年.
84. 林知己夫：「世論をどうつかまえるか」*日本人研究 4/世論とは何か* (日本人研究会編), 至誠堂, 1-48, 1976 年.
85. 林知己夫：「比較研究ということ」*統計* (日本統計協会), 27 巻 10 号 (10 月号), 55-56, 1976 年.
86. 鈴木達三：「地域開発、地域社会に関する世論」*昭和 50 年代の地域開発を考えるための地域開発関連文献に関する調査・報告書* (日本地域開発センター), 95-98, 1976 年 3 月.
87. 鈴木達三：「思想と年齢」*数理科学*, 14 巻 1 号 (No. 151), 9-14, 1976 年.

1977 年

88. Research Committee on the Study of the Japanese National Character : *Changing Japanese Value—Statistical Surveys and Analyses—*, Inst. Statist. Math., 1977.
89. 林知己夫：「世論調査の発展と現状」*世論調査の現状と課題* (輿論科学協会編), 至誠堂, 51-88, 1977 年.
90. 林知己夫：「日本人の対外国態度と対外国人態度」*日本人研究 5/日本人の対外国態度* (日本人研究会編), 至誠堂, 191-214, 1977 年.
91. 林知己夫：「価値観、につぼん 1895-1977」*週刊東洋経済*, No. 4001 (4 月 16 日号), (中綴じ 4 頁), 1977 年.
92. 林知己夫：「計量的日本人論」*文化庁月報*, No. 105 (6 月号), 4-7, 1977 年.

93. Hayashi, C. : Changes in Japanese Thought during the Past Twenty Years, *Text of Seminar in the U. S. (March 1977)*, "Nihonjin Kenkyukai Changing Values in Modern Japan", 3-57, 1977. (245. に収録)
94. Suzuki, T. and Jitodai, T. T. : Migration and Prefectural Identification in Four Japanese Prefectures, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 29, No. 3, B, 511-525, 1977. (245. に収録)
95. Suzuki, T. and Kuroda, Y. : A Note on Immigrants to Hawaii, in *A Comparative Sociological Study on the Adaptation and Attitude Change of Asian Emigrants* (Migration Research Series No. 1), Dept. of Sociology, The University of Tsukuba, 30-39, 1977.

1978 年

96. 林知己夫 : 「日本人の対外国態度」 正論, 4 月号, 31-32, 1978 年.
97. 林知己夫 : 「革新政党の伸びる条件」 Voice, 4 月号, 38-39, 1978 年.
98. 林知己夫 : 「日本人のグループダイナミックス」 グループダイナミックス (三隅二不二編), 旺文社, 128-137, 1978 年.
99. 林知己夫 : 「国民性」 実験心理学研究, 17 巻 2 号, 153, 1978 年.
100. 林知己夫 : 「政治意識の生態—時と場合で使い分け—」 朝日新聞 1978 年 12 月 16 日夕刊.
101. Hayashi, C. : Japanese Attitude and Party Preference, *Japan Echo*, Vol. 5, Special Issue, 58-81, 1978. (73. の翻訳)
102. Hayashi, C. : Nationality, in *Social Psychology in Japan* (ed. Misumi, J.), Osaka University, 674-675, 1978.
103. Kuroda, Y., Suzuki, T. and Hayashi, C. : A Cross-National Analysis of the Japanese Character among Japanese-Americans in Honolulu, *Ethnicity*, Vol. 5, 42-59, 1978.
104. 西平重喜 : 世論反映の方法 (第 II 部第 1 章 日本人の国民性), 誠信書房, 1978 年.

1979 年

105. 「国民性の研究 第 6 回全国調査—1978 年全国調査—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 46, 1979 年.
106. 林知己夫 : 「戦後日本人の意識はどう変ったか—『伝統保守』へのUターンと“新型日本人”の出現」 朝日ジャーナル, Vol. 21, No. 32 (8 月 17-24 日合併号), 96-100, 1979 年.
107. 林知己夫 : 「都会人の自然観をめぐって—自然のあり方を考えるに際して—」 グリーンエイジ (財 日本緑化センター), 9 月号, 7-14, 1979 年.
108. 林知己夫 : 「若い者は何をどう考えているか—国民性調査から—」 教育委員会月報, No. 350 (10 月号), 4-15, 1979 年.
109. 林知己夫 : 「現代日本人の意識」 自警, 12 月号, 24-28, 1979 年.
110. 林知己夫 他 : 「政治意識の感情構造の研究」 統計数理研究所 研究レポート, No. 45, 1979 年.
111. 林知己夫 他 : 「比較文化における統計的手法の確立—ハワイにおける日系人・非日系人調査—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 47, 1979 年.
112. 鈴木達三 : 「いつ日本人は勤勉ではなくなるか」 文化会議, 第 121 号 (7 月号), 29-30, 1979 年.

1980 年

113. 林知己夫 : 「日本人の自然観—心を探る統計的方法—(講演概要)」 新大広報 (新潟大学), 55 号, 17-19, 1980 年.
114. 林知己夫 : 「比較研究における方法論」 日本人とアメリカ人—比較研究の意義・方法・可能性 (トヨタ財団第 7 回助成研究報告会資料), 74-92, 1980 年 2 月.
115. 林知己夫 : 政治意識の感情構造と無党派層 ((社) 民主主義研究会報告書), 1980 年 3 月.

116. 林知己夫：「心にとって加齢とは何か」日本老年医学会雑誌, 17巻3号, 270-273, 1980年.
117. 林知己夫：「日本人の意識の底を探る試み—お化けへの関心—」数理科学, 18巻6号 (No. 204), 23-32, 1980年.
118. 林知己夫：「若者の心の流れ」更正保護 (法務省保護局編), 7月号, 32-35, 1980年.
119. 林知己夫：「多元化社会の青少年」教育委員会月報, No. 362 (10月号), 4-15, 1980年.
120. 林知己夫・飽戸弘・佐藤誠三郎・岩男寿美子・児島和人・田崎篤郎：多元化社会の生活関心 (多元化社会の生活関心研究グループ—大平総理の政策研究会報告書9), 1980年7月.
121. Hayashi, C. : Data Analysis in a Comparative Study, in *Data Analysis and Informatics* (eds. Deday, E. et al.), North-Holland, 31-51, 1980.
122. Leghorn, R. Y. and Suzuki, T. : Age, Sex and Cohort: Explicating Social Change in Post-War Japan, *Proceedings of Kyoto American Studies Summer Seminar*, Doshisha University, 95-124, 1980.
123. 水野欽司：「“暮し方”意識の動き—日本人の国民性調査から—」統計 (日本統計学会), 31巻5号 (5月号), 1-6, 1980年.
124. 西平重喜：「世論調査にみる同時代史 (1) 日本人の考え方の変化」自由, 9月号, 18-27, 1980年.
125. 西平重喜：「日本人は宗教をどう考えているか」宗務時報, No. 55, 7-20, 1980年.
126. Research Committee on the Study of Honolulu Residents : Honolulu Residents and Their Attitudes in Multi-Ethnic Perspective: Toward a Theory of the American National Character, *The ISM Monograph* 1, The University Press of Hawaii, 1980.
127. 鈴木達三：「アメリカ人の価値意識—国際比較の方法論的研究—」日本人とアメリカ人—比較研究の意義・方法・可能性— (トヨタ財団第7回助成研究報告資料), 40-73, 1980年2月.
128. 鈴木達三：「調査データの見方」確率と統計—基礎から応用まで (林知己夫編著, テレビ大学講座), 旺文社, 101-114, 1980.
129. Suzuki, T. : Pitfalls in Cross-Cultural Survey Research: Comparative Study of Value Systems in Japan and the United States, *Proceedings of Symposium on Research Funded by the Toyota Foundation, "The Japanese and the Americans: Significance, Methodology and Possibilities of International Comparative Studies"*, Toyota Foundation, 97-101, 1980.

1981年

130. 林知己夫：「国民性の比較研究—国際比較研究の問題点—」日本文化の国際性と国際化の研究 (放送開発センター, 昭和55年度), 33-54, 1981年3月.
131. 林知己夫：日本人研究三十年 (至誠堂選書6), 至誠堂, 1981年.
132. 林知己夫 他：「社会的態度基底構造についての国際比較方法の標準化に関する研究」統計数理研究所 研究レポート, No. 54, 1981年.
133. 水野欽司：「日本人の価値観を探る—第6回・国民性調査から」公務員の倫理と価値観 (地方自治研究資料センター編, 自治研修叢書), 第一法規, 165-187, 1981年.

1982年

134. 統計数理研究所国民性調査委員会：第4日本人の国民性, 出光書店, 1982年.
135. 林知己夫：「考えの筋道による国際比較」現代社会心理学の発展 I (三隅二不二・木下富雄 編), ナカニシヤ出版, 291-339, 1982年.
136. 林知己夫：「日本人論について」文化と人間 (東洋他 編, 講座現代の心理学), 小学館, 365-424, 1982年.
137. 林知己夫：「日本人の生きがいの変遷—国民性調査から—」教育と医学, 30巻4号 (4月号), 12-22, 1982年.

138. 林知己夫：「計量的国民性研究の立場—日本人研究を中心として—」**学術月報**, Vol. 35, No. 3 (6月号), 162-167, 1982年.
139. 林知己夫：「法意識の底にあるものを求めて」**現代日本人の法意識** (日本文化会議編), 第一法規, 45-83, 1982年.
140. 林知己夫：「敬う (特集—新・日本人像—)」**月刊NIRA**, 9月号, 13-15, 1982年.
141. 林知己夫・滝山貞登 編：日本と東南アジアの文化摩擦, 出光書店, 1982年.
142. 林知己夫・米沢弘：日本人の深層意識 (NHK ブックス 414), 日本放送出版協会, 1982年.
143. 林知己夫 編著：日本人の政治感覚 (日本人研究 6), 出光書店, 1982年.
144. 中村隆：「ベイズ型コウホート・モデル—標準コウホート表への適用—」**統計数理研究所彙報**, 29巻2号, 77-97, 1982年.
145. 中村隆：「新しいコウホート分析について (1) ~ (3)」**中央調査報**, No. 297 ~ 299, 6-7, 1982年.
146. 鈴木達三：「“ものの考え方”の変化と現代」**サイコロジー**, 3巻1号, 32-41, 1982年.
147. 鈴木達三：「国際比較の方法—日本人とアメリカ人—」**数理科学**, 20巻8号 (No. 230), 7-21, 1982年.
148. 鈴木達三・中村隆：「継続調査の二次分析」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 56, 1982年.
149. 鈴木達三・中村隆・柳原良造：「マーケティングの新しい手法コウホート分析 (上)」**DIAMOND ハーバード・ビジネス**, Vol. 7, No. 4, 39-48, 1982年.
150. 鈴木達三・中村隆・柳原良造：「注目されるコウホート分析 (下) マーケティング戦略にどうかすか」**DIAMOND ハーバード・ビジネス**, Vol. 7, No. 5, 86-95, 1982年.

1983年

151. 林知己夫：「女の意見の特色」**日本人研究 7/日本の女性の生き方** (杉山明子編), 出光書店, 163-179, 1983年.
152. 林知己夫：「日本人論と行動計量学」**行動計量学**, 10巻1号, 1-6, 1983年.
153. 林知己夫：「日本人の健康観」**労働衛生**, 27巻7号 (7月号), 30-31, 1983年.
154. 林知己夫：「比較日本人論」第26回 TASK 講演会予稿, TASK たばこ総合研究センター, 1983年11月.
155. Hayashi, C.: International Understanding through Broadcasting and the Basic Structure of the Social Behavior of People; *HBF News Letter*, ISSUE No. 16, May, 35-49, 1983.
156. 中村隆：「女性の意見の世代差」**日本人研究 7/日本の女性の生き方** (杉山明子編), 出光書店, 44-83, 1983年.
157. 坂元慶行：「日本人の国民性」**文化のなかの人間** (永野重史・依田明 編, 発達心理学への招待 7), 新曜社, 199-214, 1983年.
158. 坂元慶行：「日本における意識動向の新たな断面—人間関係観を中心として—」**統計数理研究所彙報**, 31巻2号, 133-149, 1983年.
159. 鈴木達三：「コウホート分析—継続調査データの組織的利用法—」**マーケティング・リサーチャー**, No. 30, 43-49, 1983年.
160. 鈴木達三・中村隆：「社会調査データの集積化と二次分析」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 58, 1983年.

1984年

161. 「伝統志向の中にも新しい日本人—文部省国民性調査」**朝日新聞** 1984年11月17日.
162. 「義理人情は健在—日本人の国民性調査」**産経新聞** 1984年11月17日.
163. 「大切なのは国より家族—国民性調査『義理人情』も健在」**東京新聞** 1984年11月17日.
164. 「『国家より家族大切』—国民性の研究まとまる、本音思考派が増加」**日本経済新聞** 1984年11月17日.

165. 「『清く正しく』が激減—30年前に比べ義理人情変わらず、伝統回帰も」 毎日新聞 1984年11月17日.
166. 「国民性の研究 第7回全国調査—1983年全国調査—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 60, 1984年.
167. 林知己夫: 調査の科学 (ブルーボックス 571), 講談社, 1984年.
168. 林知己夫: 「科学のおとし穴はどこにあるか」 あいまいさを科学する (林知己夫・坂本賢三編, ブルーボックス 554), 講談社, 17-54, 1984年.
169. 林知己夫: 「国際比較からみた私の日本人論」 集団力学研究所紀要, 第1巻, 21-59, 1984年.
170. 林知己夫: 「現代日本人の心情風景」 産経新聞 1984年12月10日夕刊.
171. 林知己夫: 「日本人の国民性に関する十章—30年間の調査から—」 教育委員会月報, No. 412 (12月号), 4-25, 1984年.
172. 林知己夫: 「新しい日本人が生まれつつある」 内外教育 (時事通信社) 1984年12月7日.
173. 林知己夫 他: 「社会調査による国際比較方法の研究」 統計数理研究所 研究レポート, No. 59, 1984年.
174. 林知己夫 他: 「新しい価値意識の形成過程に関する計量的研究」 統計数理研究所 研究レポート, No. 61, 1984年.
175. 林知己夫 編著: 多次元尺度解析法の実際, サイエンス社, 1984年.
176. Hayashi, C., Suzuki, T. and Hayashi, F.: Comparative Study of Lifestyle and Quality of Life: Japan and France, *Behaviormetrika*, No. 15, 1-17, 1984. (245. に収録)
177. Hayashi, C. and Suzuki, T.: Changes in Belief Systems, Quality of Life Issues and Social Conditions over 25 Years in Post-War Japan, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Part B, Vol. 36, No. 1, 135-161, 1984. (245. に収録)
178. 中村隆: 「コウホート分析の方法」 ブレーン, Vol. 24, No. 9, 58-65, 1984年.
179. The Research Committee on the Study of Japanese Americans in Honolulu, Hawaii: Honolulu's Japanese Americans in Comparative Perspective, *The ISM Monograph 2*, The University Press of Hawaii, 1984.
180. 四手井綱英・林知己夫 編著: 森林をみる心, 共立出版, 1984年.
181. 鈴木達三: 「世代論の計量的展開—市場調査データとコウホート分析—」 ブレーン, Vol. 24, No. 9, 45-56, 1984年.
182. 鈴木達三: 「社会調査による国際比較研究における問題」 日本心理学会シンポジウム予稿集, 1984年10月.
183. Suzuki, T.: Ways of Life and Social Milieus in Japan and the United States: A Comparative Study, *Behaviormetrika*, No. 15, 77-108, 1984. (245. に収録)

1985年

184. 統計数理研究所国民性調査委員会: 「国民性調査のコウホート分析—第3版—」 統計数理研究所 研究レポート, No. 62, 1985年.
185. 林知己夫: 「新しい日本の誕生」 世界日報 1985年1月13日.
186. 林知己夫: 「私の世界—日本人研究 (上・下)」 信濃毎日 1985年5月24, 25日夕刊.
187. 林知己夫: 「国際理解と国際比較」 統計数理, 33巻2号, 265-272, 1985年.
188. 林知己夫: 「日本人のものの考え方・感じ方—国際交流における問題点—」 国際を考えるシリーズ (国際商科大学国際交流研究所), 第3号, 3-27, 1985年.
189. 林知己夫: 「国際文化比較の意味を考える」 文化会議, 189号 (3月号), 26-37, 1985年.
190. 林知己夫: データ解析法, 日本放送出版協会, 1985年.
191. 林知己夫: 「翻訳とは何なのか」 言語生活, 創立400号記念臨時増刊号, 58, 1985年.

192. 林知己夫：「日本人の国民性」教育展望, 5月号, 20-21, 1985年。
193. 林知己夫：「国際相互理解と日本人研究—『同じ所』『異なる所』を見極めよ」産経新聞 1985年5月21日。(194.に収録)
194. 林知己夫：「国際相互理解と日本人研究—『同じ所』『異なる所』を見極めよ」正論 1985年。(193.を収録)
195. 林知己夫：「調査極意」市場調査(輿論科学協会), 183号, 1-15, 1985年。
196. 林知己夫：「新しい日本人とはどんな人間？」NEXT, 8月号, 98-102, 1985年。
197. 林知己夫・赤池弘次・鈴木達三：統計学特論, 日本放送出版協会, 1985年。
198. 林知己夫 他：「比較文化研究における連鎖的調査手法の確立とその展開—1983年ハワイ・ホノルル市民調査—」統計数理研究所 研究レポート, No. 63, 1985年。
199. Hayashi, C., Hayashi, F., Suzuki, T., Lebart, L. and Kuroda, Y. : Comparative Study of Quality of Life and Multidimensional Data Analysis: Japan, France and the U. S.(Hawaii), in *Fourth International Symposium, Data Analysis and Informatics (Versaille, France, Oct., 1985)*, INRIA, 573-583, 1985. (245.に収録)
200. Leghorn, R. Y. and Suzuki, T. : Age, Sex and Cohort: Explicating Social Change in Post-War Japan, *Behaviormetrika*, No. 18, 1-16, 1985. (245.に収録)
201. 中村隆：「ベイズ型コウホートモデル」統計数理, 33巻1号, 47-48, 1985年。
202. 西平重喜：「日本人の国民性の研究」ケース・データにみる社会・世論調査(代表者岡本宏), 芦書房, 36-72, 1985年。
203. 坂元慶行：カテゴリカルデータのモデル分析, 共立出版, 1985年。
204. 鈴木達三：「消費者行動の新しいとらえ方—コウホート分析を中心に—」講演集・消費者行動を考える(流通問題研究協会編, IDR研究資料98), 59-77, 1985年11月。

1986年

205. 林知己夫：「世界の孤児にならないために」集団力学研究所紀要, 第3巻, 110-119, 1986年。
206. 林知己夫：「日本人の休み方、遊び方」観光文化(交通公社), Vol. 59, No. 91, 1, 1986年。
207. 林知己夫：「日本人の国民性」新教育社会学辞典, 東洋館出版社, 697-698, 1986年。
208. 林知己夫：「国民性の統計的研究—来しかたを見て行くさきを思う」統計数理, 34巻1号, 1-27, 1986年。
209. 林知己夫・鈴木達三：社会調査と数量化—国際比較におけるデータ解析—, 岩波書店, 1986年。
210. 林知己夫 他：「比較文化研究における連鎖的調査手法の確立とその展開—改定増補版—」統計数理研究所 研究レポート, No. 64, 1986年。
211. Kuroda, Y., Hayashi, C. and Suzuki, T. : The Role of Language in Cross-National Surveys: American and Japanese Respondents, *Applied Stochastic Models and Data Analysis*, Vol. 2, 43-59, 1986. (245.に収録)
212. The Research Committee on the Study of Honolulu Residents : The Third Attitudinal Survey of Honolulu Residents, *The ISM Monograph 3*, The University of Hawaii Press, 1986.
213. 鈴木達三：「国際比較の現状とあり方—『意識の国際比較方法論の研究』に向けて—」文化会議, 第209号(11月号), 34-41, 1986年。

1987年

214. 林知己夫：「日本人の人間関係」人間関係論(三隅二不二編著), 日本放送出版協会, 166-182, 1987年。
215. Hayashi, C. : Statistical Study of Japanese National Character, *Journal of Japan Statistical Society*, Special Issue, 71-95, 1987.

216. Kuroda, Y., Kuroda, A. K., Hayashi, C. and Suzuki, T. : The End of Westernization and the Beginning of New Modernization in Japan: Attitudinal Dynamics of the Japanese, 1953-1983, *The Arab Journal of the Social Sciences*, Vol. 2, No. 1, 18-36, 1987. (245. に収録)
217. 中村隆 : 「公開講演会要旨 : 年齢・時代・世代の違いを探る—コウホート分析の方法—」 *統計数理*, 35 巻 1 号, 103-107, 1987 年.
218. 中村隆 : 「年齢・時代・世代の違いを捉える—ベイズ型コウホートモデル—」 *インフォメーション*, Vol. 6, No. 9, 74-84, 1987 年.
219. 坂元慶行 : 「階層帰属意識の実像」 *統計数理*, 35 巻 2 号, 233-255, 1987 年.
220. Sasaki, M. and Suzuki, T. : Changes in Religious Commitment in the United States, Holland, and Japan, *American Journal of Sociology*, Vol. 92, No. 5, 1055-1076, 1987. (245. に収録)
221. Trommsdorff, G., Suzuki, T. und Sasaki, M. : Soziale Ungleichheiten in Japan und der Bundesrepublik Deutschland, *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, Vol. 39, No. 3, 496-515, 1987. (245. に収録)

1988 年

222. 林知己夫 : 「日本人研究と国際比較」 *総研ジャーナル* (関西学院大、総合研究室), No. 50, 1-22, 1988 年.
223. 林知己夫 : 生活価値観の変化とその測定 (マーケティング教育研究所レポート), 1988 年 3 月.
224. 林知己夫 : 日本人の心をはかる, 朝日新聞社, 1988 年.
225. 林知己夫 : 「玉虫色好きは貴重な態度—日本人の国民性調査から—」 *産経新聞* 1988 年 7 月 26 日. (226. に収録)
226. 林知己夫 : 「日本人の国民性調査から」 *正論*, 10 月号, (オピニオン正論欄 30-31), 1988 年. (225. を収録)

1989 年

227. 「国民性の研究 第 8 回全国調査—1988 年全国調査—」 *統計数理研究所 研究レポート*, No. 69, 1989 年.
228. 林知己夫 : 「心をはかる 数量からみた日本人の心」 *東京新聞* 1989 年 2 月 2 日.
229. 林知己夫 : 「心をはかる 変わらぬ心、変わる心」 *東京新聞* 1989 年 2 月 9 日.
230. 林知己夫 : 「心をはかる 変化する『心の構図』」 *東京新聞* 1989 年 2 月 16 日.
231. 林知己夫 : 「心をはかる 変化の節目は 15 年刻み」 *東京新聞* 1989 年 2 月 23 日.
232. 林知己夫 : 新型日本人と企業の対応 (マーケティング教育研究所レポート), 1989 年 3 月.
233. 林知己夫 : 「人間の価値観の重要性」 *RANDOM* (リサーチ・アンド・デベロップメント), 5 号, 1-2, 1989 年.
234. 林知己夫 : 「日本人の科学文明観と情操教育」 *悠* (筑摩書房), 10 月号, 18-21, 1989 年.
235. 林知己夫 : 「国際化と日本人の意識」 *商工ジャーナル*, 11 月号, 9, 1989 年.
236. Hayashi, C. : Cultural Link Analysis for Comparative Research—A New Approach to the Exploration of Structure in Ways of Thinking Applied to Cross-National Analysis of General Social Attitude, *The Survey Statistician (ISI)*, No. 21, 14-15, 1989.
237. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Language and Attitude: A Study in Arabic, English, and Japanese on the Role of Language in Cross-Cultural Thinking, in *Thinking Across Cultures: The Third International Conference on Thinking* (eds. Topping, D. M., Crowell, D. C. and Kobayashi, V. N.), Lawrence Erlbaum Associates, 147-161, 1989. (245. に収録)
238. Sasaki, M. and Suzuki, T. : New Directions in the Study of General Social Attitudes: Trend and Cross-National Perspectives, *Behaviormetrika*, No. 26, 9-30, 1989. (245. に収録)

239. Suzuki, T. : Cultural Link Analysis: Its Application to Social Attitudes—A Study Among Five Nations, *Bulletin of the International Statistical Institute, Proceedings of the 47th Session, Paris*, 343-379, 1989. (245. に収録)
240. 吉野諒三 : 「『Batchelder と Romney の正答のないテスト理論』の拡張とアンケート調査法への応用」 *統計数理*, 37 巻 2 号, 171-188, 1989 年.

1990 年

241. 林知己夫 : 「世論調査による日本人の国民性」 *日本世論調査協会報*, 64 号, 3-9, 1990 年.
242. 林知己夫 : 「日本人の価値観」 *道標 (実務研究所)*, 3 月号, 8-9, 1990 年.
243. 林知己夫 : 「国民性」 *新教育学大事典*, 第一法規, 239-240, 1990 年.
244. Hayashi, C. : Statistical Study of Japanese National Character and Its International Comparison among Five Nations, *The Survey Statistician (ISI)*, No. 23, 14-15, 1990.
245. Hayashi, C. and Suzuki, T. (eds.) : *Beyond Japanese Social Values—Trend and Cross-National Perspectives*, Inst. Statist. Math., 1990.

1991 年

246. 林知己夫 : 「日本人の人間関係」 *人間関係論 (三隅二不二編著)*, 放送大学教育振興会, 177-192, 1991 年. (214. の改訂版)
247. 林知己夫 : 「国民性をはかる」 *市場調査 (輿論科学協会)*, 206-207 合併号, 2-32, 1991 年.
248. 林知己夫 : 「国際社会とストレス」 *ストレスと人間科学*, No. 6-1, 35-37, 1991 年.
249. 林知己夫 : 「日本の若者」 *Phase (リサーチ・アンド・ディベロプメント社年報)*, 91, 2-23, 1991 年.
250. 林知己夫 : *生活価値観とグローバル・マーケティング*, マーケティング教育研究所 (R&D), 1991 年.
251. 林知己夫 : 「豊さの中の日本—その歩みと国際社会の中で」 *進路ジャーナル*, 11 月号, 94-97, 1991 年.
252. 林知己夫・鈴木達三・林文他 : 「意識の国際比較方法論の研究: 連鎖的比較方法の確率とその展開—1988 年ハワイ・ホノルル市民調査—」 *統計数理研究所 研究レポート*, No. 70, 1991 年.
253. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三 : 「意識の国際比較方法論の研究—新しい統計的社会調査法の確立とその展開—」 *統計数理研究所 研究レポート*, No. 71, 1991 年.
254. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三 : 「意識の国際比較方法論の研究—5 カ国調査共通ファイルコードブック—」 *統計数理研究所 研究レポート*, No. 72, 1991 年.
255. Hayashi, C., Suzuki, T. and Leghorn, R. Y. : *The Japanese and the Americans—Comparative and Time Series Surveys of the Institute of Statistical Mathematics*, Inst. Statist. Math., 1991.
256. Hayashi, C., Suzuki, T. and Sasaki, M. (Eds.) : *Japanese/American National Character Conference (Hoover Institution, Stanford University, March 17-18, 1990)*, Inst. Statist. Math., 1991.
257. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Arab Students and English: the Role of Implicit Culture, *Behaviormetrika*, 29, 23-44, 1991.
258. Nisihira, S. et Condominas, C. : *L'opinion des Japonais; Société-Travail-Famille à travers les Sondages—comparaison internationale—*, Paris, Sudestasie, 1991.
259. 坂元慶行 : 「継続調査から何がわかるのだろうか—『中流意識』の分析をめぐる素朴な疑問—」 *中央調査報*, No. 400, 1-5, 1991 年.
260. Sakamoto, Y. : *Categorical Data Analysis by AIC*, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, Holland, 1991.

1992 年

261. 統計数理研究所国民性調査委員会 : *第5日本人の国民性 戦後昭和期総集*, 出光書店, 1992 年.
262. ブラジル日系人意識調査委員会 : *ブラジル日系人の意識構造*, サンパウロ人文科学研究所, 1992 年.

263. 林知己夫：「国際的にみた日本人の意識」よろん (世論調査協会報), 70号, 69-74, 1992年.
264. 林知己夫：「日本人の考えの筋道を探る」Satya (東洋大学), 7, 12-14, 1992年.
265. 林知己夫：生活価値観の動向と市場創造の課題, マーケティング教育研究所 (R&D), 1992年.
266. 林知己夫：「統計的方法による『日本人の国民性研究と意識の国際比較』方法論序説」日本統計学会誌, 21巻3号, 353-367, 1992年.
267. 林知己夫：「公開講演会要旨：日本人の国民性」統計数理, 40巻2号, 227-234, 1992年.
268. Hayashi, C. : Belief Systems and the Japanese Way of Thinking: Interchronological and International Perspectives, in *Social, Educational and Clinical Psychology, Proceedings of the 22nd International Congress of Applied Psychology: Volume 3*, Lawrence Erlbaum Associates, Publishers, 3-34, 1992.
269. Hayashi, C. : Quantitative Social Research—Belief Systems, the Way of Thinking and Sentiments of Five Nations—, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 2, 127-170, 1992.
270. Hayashi, C., Suzuki, T. and Sasaki, M. : *Data Analysis for Comparative Social Research, International Perspectives*, Elsevier, North-Holland, 1992.
271. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : A Comparative Analysis of the Arab Culture: Arabic, English, and Japanese Languages and Values, *Behaviormetrika*, 30, 35-53, 1992.
272. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Tahalil Mugarin Thagafa Al-Arabiye; Al-Lughat Wa Al-Queem Al Arabiye Wa Al-Ankelizidyeh Wa Al-Yabaniye (A Comparative analysis of the Arab culture; Arabic, English and Japanese language and values), *Al Mustaqbal Al Arabi (The Arab Future)*, No. 16, 14-31, 1992.
273. 中村隆：「継続調査データによって社会の変化をとらえる—コウホート分析の方法—」教育と情報, No. 406, 46-47, 1992年.
274. Nishihira, S. : Public Opinion in Japan—Changes and Comparisons, *Japanstudien*, Band 4, 37-54, 1992.
275. 坂元慶行：「統計学の効用」教育と情報, No. 416, 46-47, 1992年.
276. 鈴木達三：「公開講演会要旨：国民性比較の方法論」統計数理, 40巻2号, 243-253, 1992.
277. 吉野諒三：「社会調査データの国際比較の枠組みのための“superculture”」統計数理, 40巻1号, 1-16, 1992年.
278. Yoshino, R. : An Extension of the Test Theory Without Answer Key by Batchelder and Romney for Social Survey Research, in *Social, Educational and Clinical Psychology, Proceedings of the 22nd International Congress of Applied Psychology: Volume 3* (eds. Motoaki, H., Misumi, J. and Wilpert, B.), Lawrence Erlbaum Associates, Publishers, 108, 1992.
279. Yoshino, R. : Superculture as a Frame of Reference for Cross-national Comparisons of National Characters, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 1, 23-41, 1992.
280. Yoshino, R. : The Unbiased BRIGHT Model and Its Application to the Distinction of Responses to a Free-answer Question in a Social Survey, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 2, 83-96, 1992.

1993年

281. 林知己夫：行動計量学序説, 朝倉書店, 1993年.
282. 林知己夫：「国民性, 県民性」現代学校教育大辞典, ぎょうせい, 1993年.
283. 林知己夫：「日本人の国民性」Phase (リサーチ・アンド・ディベロプメント社年報), 93, 64-95, 1993.
284. 林知己夫：生活価値観と消費市場, マーケティング教育研究所 (R&D), 1993年.
285. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究—5カ国調査性別, 年齢別集計—」統計数理研究所 研究レポート, No. 73, 1993年.

286. 林知己夫・水野坦・鈴木達三・吉野諒三・林文・山本勝造・河合武夫・脇坂勝則・宮尾進・森幸一：「ブラジル日系人の意識調査—1991～1992年調査（改訂補遺版）」統計数理研究所 研究レポート，No. 74，1993年。
287. 鈴木達三：「“ものの考え方”を比較する—国民性比較の方法論—」教育と情報，No. 420，44-45，1993年。
288. Suzuki, T. : Macro Analysis by Means of Cohort Analysis, *Behaviormetrika*, Vol. 20, No. 1, 77-90, 1993.

1994年

289. 「国民性の研究 第9回全国調査—1993年全国調査—」統計数理研究所 研究レポート，No. 75，1994年。
290. 「『家族が一番大切』42%—文部省の国民性調査」朝日新聞 1994年7月17日。
291. 「高まる家族志向、『金・名誉』より『のんき・趣味』—文部省国民性調査」産経新聞 1994年7月17日。
292. 「衣食足りて強まる家族志向!?—文部省の国民性調査」東京新聞 1994年7月17日。
293. 「『社会に満足』初の50%—国民性調査」日本経済新聞 1994年7月17日。
294. 「半数が『社会に満足』—国民性調査『緩やかな保守化』示す」毎日新聞 1994年7月17日。
295. 「マイホーム派増え仕事志向には陰り—国民性調査」読売新聞 1994年7月17日。
296. 「性の制約薄れ『人生に挑戦』」日本経済新聞 1994年8月17日。
297. 林知己夫：「消費者意識の流れを読む」観光文化（交通公社），Vol. 103，2-7，1994年。
298. 林知己夫：「心の変化と不変が綾なす風景」産経新聞（正論）1994年3月15日。
299. 林知己夫：「国民性と環太平洋構想」大平正芳記念財団レポート，11号，11，1994年。
300. 林知己夫：「国民性と環太平洋連帯構造」大平正芳政治的遺産，大平正芳記念財団，341-348，1994年。
301. 林知己夫：「日本人の国民性：変わらぬ点，変わる点，特殊な点，普遍な点」ESTRELA（統計情報研究開発センター），11月号，28-32，1994年。
302. 林知己夫：「日本人の国民性：変わらぬ点，変わる点，特殊な点，普遍な点」ESTRELA（統計情報研究開発センター），12月号，28-31，1994年。
303. 林知己夫：「日本人の国民性」フォーリン・プレス・センター，1994年。
304. Hayashi, C. : The Japanese National Character, *Foreign Press Center*, 1994.
305. 林文：「日本人の自然観—プリテスト調査から—」森林野生動物研究会誌，No. 20，25-30，1994年。
306. 林文：「日本人の自然観についての予備的考察」NSS Journal，No. 1，159-174，1994年。
307. Hayashi, F. : Comparative Analysis of the Japanese and Germans: Some Topics on Social Values, *Behaviormetrika*, Vol. 21, No. 1, 61-78, 1994.
308. Murakami, M. : Estimate of the Number of International Children in Japan, Based on Trends in Inter-marriage, *International Journal of Japanese Sociology*, No. 3, 29-43, 1994.
309. 坂元慶行：「質的な事象の要因を探す」データを科学的に読む，統計数理研究所創立50周年記念・日経NEEDS20周年記念講演，1-5，1994年。
310. 坂元慶行：「価値や視線は私生活に集中—『日本人の国民性調査』から—」FORUM（日経産業消費研究所），No. 121，2-3，1994年。
311. 鈴木達三：「国際比較調査の事例から『日本語の国際化』を考える」日本語学，13巻13号，43-59，1994年。
312. 吉野諒三：「国民性意識の国際比較調査研究—統計数理研究所による社会調査研究の時間・空間的拡大—」統計数理，42巻2号，259-276，1994年。

1995年

313. 林知己夫：「国民性からみた日本の将来」日本教育，No. 221（1月号），12-14，1995年。

314. 林知己夫：「日本人の心の行方」ライフスタイル展望 21, R&D, 1-39, 1995 年.
315. 林知己夫：「日本人の柔かな思想」市場調査 (輿論科学協会), 222 号, 2-16, 1995 年.
316. 林知己夫：数字からみた日本人のこころ, 徳間書店, 1995 年.
317. 林知己夫：「日本の現象に浸透の中間的好み」産経新聞 (正論) 1995 年 7 月 25 日.
318. 林知己夫：「日本人の心を探る—日本人の『長』に対するイメージを通して—」マーケティング教育研究所, 6, 1, 1995 年.
319. 林知己夫：「外交の基本は国民性の理解に」産経新聞 (正論) 1995 年 10 月 21 日.
320. 林知己夫・林文：「国民性の国際比較」統計数理, 43 巻 1 号, 27-80, 1995.
321. 林知己夫・鈴木達三他 (データライブラリーに関する研究会)：データライブラリーのあり方に関する研究 (地域社会研究所 研究報告), 1995 年.
322. Hayashi, C. : *Changing and Enduring Aspects of Japanese National Character*, Institute of Social Research, INSS (Institute of Nuclear Safety System), 1995.
323. Hayashi, F. and Suzuki, T. : Data Analytic Representation of Characteristics of Various Break-downs in Cross-Cultural Survey, in *Data Science and Its Application* (eds. Hayashi, C. et al.), Harcourt Brace Japan, 235-246, 1995.
324. 駒澤勉・土屋隆裕：「可視化による探索的数量化 III 類の分析法—『第 9 次日本人の国民性調査』データの順序構造に関する分析」統計数理, 43 巻 1 号, 161-176, 1995 年.
325. 前田忠彦：「日本人の満足感の構造とその規定因に関する因果モデル—共分散構造分析の『日本人の国民性調査』への適用—」統計数理, 43 巻 1 号, 141-160, 1995 年.
326. 中村隆：「交互作用効果モデルと過大分散モデルを用いたコウホート分析—『日本人の国民性調査』データへの適用—」統計数理, 43 巻 1 号, 99-119, 1995 年.
327. 西平重喜：「社会的価値観は変わるか」統計数理, 43 巻 1 号, 81-97, 1995 年.
328. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』—40 年間の意識動向—」統計数理, 43 巻 1 号, 5-26, 1995 年.
329. 坂元慶行：「意識調査の調査方式と調査結果 その (1)」ESTRELA (統計情報研究開発センター), 10 月号, 43-51, 1995 年.
330. 坂元慶行：「意識調査の調査方式と調査結果 その (2)」ESTRELA (統計情報研究開発センター), 11 月号, 34-42, 1995 年.
331. Sakamoto, Y. : A Study of Japanese National Character: Ninth Nationwide Survey, *Research Memorandum*, No. 572, 1995.
332. 鈴木達三：「調査法に関する一考察—質問の順や文脈, 前後関係による影響 (context effects)—」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 16, 8-15, 1995 年.
333. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—総合報告書—」統計数理研究所 研究レポート, No. 76, 1995 年.
334. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—国民性の国際比較の為のマニュアル—」統計数理研究所 研究レポート, No. 77, 1995 年.
335. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—イタリア調査の回答コードブック—」統計数理研究所 研究レポート, No. 78, 1995 年.
336. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—イタリア調査の自由回答データ—」統計数理研究所 研究レポート, No. 79, 1995 年.
337. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—オランダ調査の回答コードブック—」統計数理研究所 研究レポート, No. 80, 1995 年.

338. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—オランダ調査の自由回答データ—」 **統計数理研究所 研究レポート**, No. 81, 1995 年.
339. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—イタリア・オランダ調査の共通ファイルコードブック—」 **統計数理研究所 研究レポート**, No. 82, 1995 年.
340. 土屋隆裕：「項目分類のための数量化法」 **行動計量学**, 22 巻 2 号, 95-109, 1995 年.
341. 土屋隆裕：「複数データセット間の違いを調べる等質性分析—『日本人の国民性調査』データへの適用—」 **統計数理**, 43 巻 1 号, 121-140, 1995 年.
342. 吉野諒三・林知己夫・鈴木達三：「国民性の国際比較調査の為の質問文の作成—翻訳のプロセスを中心として—」 **行動計量学**, 22 巻 1 号, 62-79, 1995 年.
343. Yoshino, R. and Khor, D. : Complementary Scaling for Cross-National Analyses of National Character, *Behaviormetrika*, Vol. 22, No. 2, 155-184, 1995.

1996 年

344. 林知己夫：日本人の心とガン告知 (日本癌病態治療学会報告書), 1996 年.
345. 林知己夫：日本らしさの構造—こころと文化をはかる, 東洋経済新報社, 1996 年.
346. 林知己夫：「日本特殊論は成り立つか」 **コンセンサス**, 2 月号, 6-7, 1996 年.
347. 林知己夫：「数字からみた日本人の心」 **住友マネジメントレビュー**, 2 月号, 30-31, 1996 年.
348. 林知己夫：「統計で探る日本人のこころ」 **郵政**, 3 月号, 6-9, 1996 年.
349. 林知己夫：「日本人の心とガン告知」 **産経新聞** (正論) 1996 年 2 月 29 日.
350. 林知己夫：「日本人の国民性—変わるものと変わらないもの, 特殊なものと普遍なもの—」 **交詢雑誌**, No. 387, 12-20, 1996 年.
351. 林知己夫：「トップのリーダーシップについて思うこと」 **運輸と経済**, 9 月号, 2-3, 1996 年.
352. 林知己夫・加留部清・北田淳子・北條眞：「日本における『長』のイメージ」 **INSS Journal**, No. 3, 90-132, 1996 年.
353. Hayashi, C. : Cultural Link Analysis (CLA) for Qualitative Comparative Social Research and Its Applications, in *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 202-229, 1996.
354. Sasaki, M. and Suzuki, T. : Changes in Religious Commitment in the United States, Holland, and Japan, in *Comparing Nations and Cultures* (eds. Inkeles, A. and Sasaki, M.), Prentice-Hall, 586-601, 1996.
355. 鈴木達三：「国際比較調査における標本計画と調査実施に関する一考察」 **行動計量学**, 23 巻 1 号, 46-62, 1996 年.
356. 鈴木達三：「サンプリング, 国際比較, 分析・報告 (の一部)」 **世論調査事典** (NHK 放送文化研究所編), 大空社, 1996 年.
357. Suzuki, T. : Macro Analysis by Means of Cohort Analysis, in *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 53-70, 1996.
358. Suzuki, T. and Sasaki, M. : The Use and Role of the Data Library for Improving Survey Methods, *Paper presented at the WAPOR Regional Conference in Tokyo*, 1996.
359. Yoshino, R. : Degree of Conformity for the Cross-National Comparative Study of National Character, in *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 182-206, 1996.

1997 年

360. 林知己夫：「長 (リーダー) の命運と社会の命運」 **市場調査** (輿論科学協会), 229 号, 2-19, 1997 年.

361. 林知己夫：日本人の意識の特色と変化・不変化，第87回尾張講習会（名古屋東別院），1997年。
362. 林知己夫：「社会調査と数量化」社会情報，Vol. 7, No. 1, 7-35, 1997年。
363. 林知己夫・鈴木達三：社会調査と数量化（増補版）—国際比較におけるデータの科学—，岩波書店，1997年。
364. Hayashi, C. and Kuroda, Y. : *Japanese Culture in Comparative Perspective*, Praeger, 1997.
365. 林文：「国民意識の動向」過渡期としての1950年代（中村隆英・宮崎正康編），東京大学出版会，215-238, 1997年。

1998年

366. Study on Japanese Behavior and Attitude Patterns in JAs, **Hokubei Mainichi** 1998.10.14.
367. Studies of Nikkei Character Underway, **Nikkei West** 1998.10.15.
368. 統計数理研究所国民性国際調査委員会：国民性七か国比較，出光書店，1998年。
369. 林知己夫：「社会調査と数量化（文献紹介）」社会学文献事典，弘文堂，1998年。
370. 林知己夫：「『日本的なるもの』の行方を探る（対談）」炸，No. 50（12月号），6-7, 1998年。
371. Hayashi, C. : What is Data Science? —Fundamental Concepts and a Heuristic Example, in *Data Science, Classification and Related Methods* (eds. Hayashi, C. et al.), Springer-Verlag, 40-51, 1998.
372. Hayashi, C. : The Quantitative Study of National Character, Interchronological and International Perspectives, *Int. J. of Comparative Sociology*, Vol. 39, No. 1, 91-114, 1998. (後に Sasaki, M. (ed.), *Values and Attitude Across Nations and Time*, Brill, pp.91-114 に再録)
373. 前田忠彦：「階層帰属意識と生活満足感」1995年SSM調査シリーズ6「現代日本の階層意識」（間々田孝夫編），1995年SSM調査研究会，89-112, 1998年。
374. 前田忠彦：「2種類の満足感の相互関係」共分散構造分析【事例編】—構造方程式モデリング—（豊田秀樹編著），北大路書房，1998年。
375. 中村隆：「調査データの標本誤差評価とブートストラップ法—層別確率比例復元2段無作為抽出法の場合—」ESTRELA(統計情報研究開発センター)，3月号，11-19, 1998年。
376. 中村隆：「1995年SSM調査の標本設計と標本精度—標本抽出法を考慮した分析に向けて—」1995年SSM調査シリーズ1「社会階層・移動の基礎分析と国際比較」（石田浩編），1995年SSM調査研究会，77-100, 1998年。
377. 鈴木達三：「イメージの中の日本」国際社会と日本語，国立国語研究所，23-24, 1998年。
378. 鈴木達三・高橋宏一：標本調査法，朝倉書店，1998年。

1999年

379. 「日本人，全体に『自信喪失』—文部省が国民性調査」朝日新聞 1999年4月28日。
380. 「日本の経済力『よい』5年で47ポイント減の32%—国民性調査」産経新聞 1999年4月28日。
381. 「不況の影 5年の落差 自信喪失“症候群”—国民性調査」東京新聞 1999年4月28日。
382. 「現状『不満』将来『悲観』—日本人の国民性」日本経済新聞 1999年4月28日。
383. 「『社会に満足』半減—日本人の国民性調査」毎日新聞 1999年4月28日。
384. 「日本広がる悲観論—文部省国民性調査」読売新聞 1999年4月28日。
385. Survey: Nothing to cheer about, **Asahi Evening News** 1999.4.28.
386. 林知己夫：「公開講演会要旨：国民性の国際比較—計量的文明論構築へに向けて—」統計数理研究所ニュース，No. 66, 3, 1999年。
387. 林知己夫：「調査とデータの科学」国際社会と日本語，国立国語研究所，125-138, 1999年。
388. 林文：「意識調査からみた日本人の自然観—自然観の意識構造と若者の意識—」東洋英和女学院大学人文・社会科学論集，第15号，31-51, 1999年。

389. 中村隆：「年齢・時代・世代の違いを探る—コウホート分析の方法—」*こうしょう* (高翔), No. 32, 15-18, 1999 年.
390. 中村隆：「公開講演会要旨：国民性と変化—年齢・時代・世代、どれが意識の違いを生むか—」*統計数理研究所ニュース*, No. 66, 2, 1999 年.
391. 坂元慶行：「日本人の国民性調査—20 世紀後半期の意識動向」*文部時報*, No. 1474, 52-55, 1999 年.
392. 坂元慶行：「私見『日本人の国民性調査』」*よろん*, 84 号, 5-14, 1999 年.
393. 坂元慶行：「公開講演会要旨：統計的日本人研究—『日本人の国民性調査』の半世紀」*統計数理研究所ニュース*, No. 66, 2, 1999 年.
394. Sakamoto, Y.: Statistical Research of the Japanese National Character: General Trends in Attitudes over the Latter Half of the Twentieth Century, *WAPOR 52nd Conference Papers*, No. 12, 1999.

2000 年

395. 林知己夫：「時系列からみた日本人の国民性」*市場調査*, No. 242, 4-23, 2000 年.
396. 林知己夫：「これからの国民性研究—人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ—」*統計数理*, 48 巻 1 号, 33-66, 2000 年.
397. 林知己夫：「公開講演会要旨：国民性の国際比較—計量的文明論の構築へむけて—」*統計数理*, 48 巻 1 号, 259, 2000 年.
398. 黒田安昌：「変化してゆく日本文化：その要素と原因」*統計数理*, 48 巻 1 号, 77-92, 2000 年.
399. 前田忠彦・中村隆：「近年 5 回の国民性調査の標本設計と標本精度について」*統計数理*, 48 巻 1 号, 147-178, 2000 年.
400. 中村隆：「質問項目のコウホート分析—多項ロジット・コウホートモデル—」*統計数理*, 48 巻 1 号, 93-119, 2000 年.
401. 中村隆：「公開講演会要旨：国民性と変化—年齢・時代・世代、どれが意識の違いを生むか—」*統計数理*, 48 巻 1 号, 255-258, 2000 年.
402. 西平重喜：「国民性調査の周辺」*統計数理*, 48 巻 1 号, 67-76, 2000 年.
403. 坂元慶行：「日本人の考えはどう変わったか—『日本人の国民性調査』の半世紀—」*統計数理*, 48 巻 1 号, 3-32, 2000 年.
404. 坂元慶行：「公開講演会要旨：統計的日本人研究—『日本人の国民性調査』の半世紀—」*統計数理*, 48 巻 1 号, 253, 2000 年.
405. 土屋隆裕：「UNISCAL による『日本人の国民性調査』データの分析」*統計数理*, 48 巻 1 号, 121-145, 2000 年.